

12月11日(取次搬入)発売予定!

—『負債論』で注目されているグレーバーによる鋭い現代社会の人類学的批評!—

デヴィッド・グレーバー 著

官僚制のユートピア

テクノロジー、構造的愚かさ、リベラリズムの鉄則

本書の分析対象は、「規制緩和」と総称される現代社会そのものである。翻訳のうえで「ルール」を官僚制としたのは、全く同じことは私企業ではマネジメントといわれており、その性格はかつての官僚制と全く同じことを意味しているためである。

官僚制についての短いサーヴェイに続いて、政府による経済介入の縮小政策は、むしろより多くの規制、官僚、警察官を生み出すという「リベラリズムの鉄則」が描かれる。そして自由な市場経済を維持するためには、ルイ14世風の絶対主義の数千倍のお役所仕事が必要になるという逆説が指摘される。

この逆説のために〈自由〉や〈合理〉という基本的観念が揺らぎ、コラボだのグループワークだの自己点検、自己評価、創発性といった「クリエイティヴ」な売りに自ら演ずることを強要される。日常における自らの立ち位置が不明瞭となり、自己責任ばかりが強調される雰囲気醸し出される。

本書は社会制度から自由などの基本的概念、日常の感情世界にいたるまで、不定期労働者が創生される土壌を人類学する基本図書である。

デヴィッド・グレーバー (David Graeber)

1961年、ニューヨーク生まれ。文化人類学者・アクティヴィスト。ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス大学人類学教授。

著書:『アナーキスト人類学のための断章』(以文社、2006年)

『資本主義後の世界のために』(以文社、2009年)

『負債論』(以文社、2016年)

他:Lost People:Magic and the Legacy of Slavery in Madagascar,Indiana University Press.

Toward an Anthropological Theory of Value:The False Coin of Our Own Dreams (Palgrave,2001).

Direct Action:An Ethnography (AK Press,2007) ,On Kings (HAU,近刊) など多数。

【訳者】

酒井 隆史(さかいたかし)

大阪府立大学教員、専攻は社会思想史、都市形成史。

著書:『自由論』(青土社、2001年)

『暴力の哲学』(河出文庫、2016年)

『通天閣—新・日本資本主義発達史』(青土社、2011年)

『〈帝国〉』共訳(以文社、2003年)

『負債論』監訳(以文社、2016年)など多数。

四六判 上製カバー装 388頁 本体価格:3,500円 (定価:3,780円)

希望陳列コーナー:現代社会・現代思想

以文社 ISBN 978-4-7531-0343-0 C0010 本体価格:3,500円 (定価:3,780円)		
帳合・番線	ご希望冊数	書名
		<p>官僚制のユートピア</p> <p>テクノロジー、構造的愚かさ、リベラリズムの鉄則</p> <p>デヴィッド・グレーバー 著 酒井隆史 訳</p>

※指定配本の都合上12月04日までにFAXまたは電話にてご返信お願い致します。